



けやきのように・・・②



長尾小学校・「学習習慣形成モデル校事業」だより （平成29年10月24日）

校庭のけやきの木からの落葉も、日々その数が増えています。落ち葉かきも追いつかなくなる日も近いようです。「落ち葉のじゅうたんに寝転がって…」と楽しむことができればいいのですが。

葉を落として枝だけになることも、木々にとっては成長過程です。何よりも、けやきは剪定してもぐんぐんと枝を伸ばし、青々とした葉を増やしていきます。子どもたちも成長過程です。しっかりと私たち大人が肥やしを蒔いて、成長を支えていきたいものです。

<家庭でのルール>

今回は、家庭でのルールについてのお話です。学校だけでなく、世の中には人々が安全・安心してくらせるようにするためのルール（きまり）がつくられています。しかし、そのルールも十分に守られなくなると、新たなルールが増えたり、罰が厳しくなったりします。飲酒運転などがそのよい例です。

家庭でのルールは、罰などを与えるものではありませんが、当たり前なのが当たり前でできるようにするための約束事ではないでしょうか？家庭学習も、環境を整えることによってスムーズに取り組むことができるようになります。ぜひ、以下のことを家庭でもう一度ふり返ってみてください。



「ルールって、だれのためにあるんだろう」

子どもたちは、家庭でのルールや約束を守ったり破ったりしながら、人との関係の在り方や社会のルールの大切さを学んでいきます。家庭のルールには、あいさつ、家に帰る時間、寝る時間、きちんとした姿勢などの生活上のルールもあれば、嘘をつかないなどといった道德上のルールもあります。しつけに一貫性をもたせ、しっかりと身に付けさせるためにも、家族でよく相談してはっきりとしたルールをつくり、子どもとともに保護者もそれを守っていきましょう。また、子どもの意見を聞いて一緒にルールをつくるという姿勢も大切です。

「子どもの言うことを何でも聞くことが、親のやさしさとは限らない」



安易にモノを買い与えすぎると、子どもは欲しいモノを手に入れるために努力をしたり、我慢をしたり、工夫をしたりすることができなくなります。そして、やたらとモノを欲しがり、自分の気持ちを抑えられなくなってしまいます。ブランド品や携帯電話など、友達も持っているからなどと言った理由で安易に買い与えないようにしましょう。欲しいと言ったら、なぜそれがいいのかよく話し合ってください。子どものためを思うならお金より、心や愛情を使い、家族の関係を深めましょう。



「テレビやビデオ、携帯電話などは使いよう」

テレビやゲーム、ビデオや携帯電話、ネットばかりにのめり込むと、人間関係をつくる力や他人を思いやる心が育たない、仮想と現実の区別がつかなくなるなど、子どもの健全な心の成長に影を落としかねません。特に、極端に暴力的な場面や露骨な描写が盛り込まれたものなどは、保護者の判断で見せないようにするなど、家庭のルールとしていきましょう。また、保護者の方は、何を見ているのか、何をしているのかをしっかりと把握してください。その一方で、子どもによいと思われる番組や映画などを一緒に見るなどして、その内容を話題にしてコミュニケーションを深めるとよいでしょう。食事の時や勉強をしている時にはテレビを消す、携帯電話を持たないなどを、みんなで徹底してみてください。

「子ども部屋を与えるときには、そのルールも考えよう」



子ども部屋についての問題が、時々出てきます。子どもが部屋に閉じこもると保護者の目が届かなくなったり、家族の会話が減ったりします。また、子ども部屋が犯罪の場になってしまう例さえあります。子ども部屋を子どもの成長に役立つようにするには、ルールが必要です。居間に顔を出してから部屋に入る、鍵はかけない（取り付けない）、友人を入れる場合は紹介させる、保護者はその責任として必要な時には子ども部屋に入るなど子どもの様子をしっかりと把握できるように、各家庭で子ども部屋のルールづくりをしてください。

